

神戸市在宅重度障害児者医療福祉コーディネーター事業 第6回在宅セミナー(保護者向け)報告

テーマ あぶない!をコントロールして、介助時における骨折の危険を防ぐ

プログラム(総合司会進行 久井)

①関節の変形・拘縮、骨折、側彎症 講師：河崎洋子 にこにこハウス医療福祉センター施設長
②安全・安楽なポジショニング・移乗介助 講師：烏山亜紀 同 理学療法士
演習補助：福壽、長谷川
にこにこハウス医療福祉センター職員

④小グループに分かれて昼食をとりながらの情報交換会

進行：中平、ファシリテーター(4名)： 中川、木村、福壽、三宅

にこにこハウス医療福祉センター職員

対象者 重症心身障害児者の保護者 28名 (支援学校教諭1名含む)

開催日時 2018年12月7日(金) 10:30~13:30 (10:00~受付)

開催場所 にこにこハウス医療福祉センター本館 会議室

研修概要

本セミナーは、重症児者の保護者に向けた第4回目のセミナーである。研修のメインテーマは、『あぶない!をコントロールして、介助時の骨折の危険を防ぐ』であり、プログラム①では、河崎施設長より、重症児者の関節変形や拘縮、側彎といった介助が容易でないことや骨折しやすい状況について分かりやすく



伝えていただきました。プログラム②では、烏山理学療法士より、そのような状況にある重症児者を安全安楽な移乗やポジショニングについて、講義と演習で見て学ぶこともできました。それだけでなく、実際に体験することもでき、重症児者の皆様の長時間同じ姿勢で居ることの大変さや苦痛、無理な身体の向きの変え方や移乗も苦痛を与えることだと身をもって学びました。また使用したポジショニングや移乗に使用するグッズの展示ブースもあり、実際に触りながら、業者の方へ個別に質問が出来る機会となりました。プログラム③の情報交換会は、看護職・支援職がファシリテーターとなり、保護者同士の交流を第一の目的として、軽食をとりながらディスカッションを行いました。受講者からのアンケートから交流会はとても好評であり、今回も骨折や側彎の話題だけでなく、生活全般の工夫していることや保護者の方の健康面に関する事など全グループ会話が弾み、笑い声が絶えずきこえるなど有効な交流会が持てました。

受講者からの評価（アンケート結果抜粋）

回答者 27 名

セミナーのプログラム①（関節変形・拘縮等については、とても参考になった 23 名、参考になった 3 名、少し参考になった 1 名であった。プログラム②（安全安楽な移乗・ポジショニング）については、とても参考になった 21 名、参考になった 5 名、少し参考になった 3 名、少しは参考になった 1 名であった。プログラム③（交流会）については、とても参考になった 16 名、参考になった 6



名、少し参考になった 1 名、無回答 4 名であった。「このセミナーに来ることで、日常の介護を振り返る機会になる。」「生の情報交換ができる。」「気軽に話せた。」などの意見があった。来年度以降このようなセミナーを開催について、ぜひ参加したい 18 名、テーマによっては参加したい 7 名、テーマによっては参加したい 1 名とセミナー開催を望まれ、希望するテーマについては、当事者の情緒・精神の発達に関する内容や介護力に関連した情報や知識について等と具体的なテーマが出された。

今後の課題

アンケートの結果からも本セミナーの研修内容ならびに保護者同士・職員のつながりを意識した情報交換会など有効であったと考える。また開始時刻、講義内容も受講者ニーズを満たしていると考えている。今回、当施設利用者が登録しているメールサービスを活用し勉強会の広報活動を追加したことで、参加者の増加につながったと考える。



神戸市在宅重度障害児者医療福祉コーディネーター事業

第7回在宅セミナー(専門職向け)報告

テーマ あぶない!をコントロールして、介助時における骨折の危険を防ぐ

プログラム(総合司会進行 久井)

①関節の変形・拘縮、骨折、側彎症 講師：河崎洋子 にこにこハウス医療福祉センター施設長
②安全・安楽なポジショニング・移乗介助 講師：烏山亜紀 同 理学療法士
演習補助：福壽、長谷川
にこにこハウス医療福祉センター職員

④小グループに分かれて昼食をとりながらの情報交換会

進行：中平、ファシリテーター(3名)：古川、柏木、松田 にこにこハウス医療福祉センター職員

対象者 重症心身障害児者に携わる専門職者(医療・福祉・教育) 18名

開催日時 2018年12月8日(土) 13:00~17:00 (12:30~受付)

開催場所 にこにこハウス医療福祉センター本館 会議室

研修概要

本セミナーは、重症児者の専門職に向けた第3回目のセミナーである。プログラム①では、河崎施設長より関節変形や拘縮、側彎のメカニズムを含めながら、図説や利用者の実態などを織り交ぜ、側彎の進行の速さや生活上の不都合さなど具体的に分かりやすい内容でした。プログラム②では、烏山理学療法士より、プログラム①の内容を受けての安全・安楽な移乗やポジショニングについて、講義だけでなく、演習を行い、日頃のケアを振り返り、体験できる機会をえました。



プログラム④の情報交換会は、看護職・支援職がファシリテーターとなり、様々な職種の方々の交流を第一の目的として、お菓子をつまみながらディスカッションする機会を設けました。参加者は、日頃のケアを見直す機会となり、ケア方法についての情報交換や、様々な現場の状況を発信し、交流を持つことが出来ていた。

受講者からの評価（アンケート結果抜粋）

回答者 16 名

セミナーのプログラム①

（関節変形・拘縮などについては、とても参考になった 13 名、参考になった 3 名であった。プログラム②（安全な移乗・ポジショニング）については、とても参考になった 5 名、参考になった 6 名であった。プログラム③（情報交換会）については、とても参考になった 7 名、参考になった 6 名、参考にならなかった 1 名であった。来年度以降このようなセミナーを開催



について、ぜひ参加したい 3

名、参加したい 7 名、テーマによっては参加したい 5 名、無回答 1 名とセミナー開催を概ね望まれ、希望するテーマについては、具体的な筋緊張をほぐす方法やそこに必要なアセスメント、ボトックス必要な対象者など具体的なテーマが出された。

今後の課題

アンケートの結果からも本セミナーの研修内容は、有効であったと考える。希望するテーマのから、参加者は、重症児者に関連する疾病構造や病態をおさえた上で、具体的なケア方法を獲得したい。そのために必要なアセスメントなどのニーズがあることが明らかとなった。また、参加者の背景や人数が横ばいで有り、企画・運営側から小規模事業所からの参加者を増やす方略が必要であり、その 1 つとして、勤務後に参加できる時間帯（イブニングセミナー）で開催することも検討する。